巻頭言

自己決定力の向上と貢献する都市

神戸市消防局長　菅原　隆喜

NHK連続テレビ小説「べっぴんさん」が現在放映され、神戸への注目が集まっていますが、ロケ地でもあるエキゾチックな異人館の街・北野は三宮から山側へゆるやかな坂道を登りつめたところにあります。かつて、故国を離れた外国人たちが、海の見える高台に邸宅を構え、故郷に想いをはせたことから誕生した街でトンガリ屋根に風見鶏がチョコンと乗った風見鶏の館は北野のシンボルになっています。また、神戸港は開港から150年の節目を迎え、神戸市では記念事業として、神戸港での多彩な行事や港の利用拡大につながる事業を行い、神戸の魅力を広く内外に発信しているところです。

さて、阪神・淡路大震災から22年が経過し、神戸市では、震災を経験していない市民や職員が半数を超え、震災の経験や教訓の継承が課題になっています。そうした状況のなかで、近年激化する気象災害や南海トラフ地震などの大規模広域災害に備えるためには、地域防災計画の基本理念でもある日頃からの備えと災害時の行動について、市民・事業者・市のそれぞれの立場から自ら考えて備え、判断し、行動する「自己決定力の向上」に向けた取組を更に推進していく必要があると考えております。これからも、大震災の経験を踏まえて、全市に設置されている「防災福祉コミュニティ」による避難訓練など、地域の防災事業を住民と協働で続けていくとともに、これまで取り組んできた防災教育や啓発を一層推進し、大震災の教訓である自助・共助の重要性を次の世代に受け継ぎ、震災の教訓や経験を国内外に発信してまいります。震災を経験した神戸市は、今後とも「貢献する都市」として被災者に寄り添い、被災地の復興に少しでも役立つことができるよう取り組んでまいります。

また、近年は住宅火災で亡くなる方が多く、一昨年に発生した、火元から離れた方が一酸化炭素中毒で亡くなった火災に着目し、昨年度からは火災原因の調査結果を全国に発信するとともに一酸化炭素中毒が発生するメカニズムを現在産官学協働で究明しているところです。さらに、救急需要の増加に対しては、引き続き市民の皆様に救急車の適正な利用をお願いするとともに緊急性の判断に迷う場合は、スマートフォンからでも確認できる「神戸市救急受診ガイド」の利用を呼び掛けるほか、119番通報以外の窓口を設けて市民の皆様が医療相談できる仕組みを現在保健福祉部門と協議・検討しているところです。

本年度からは５年ごとの当局の具体的取組を定めた計画で過去の分析・評価から最優先で取り組むべき課題を選択と集中により掲げた「神戸消防アクションプラン2020」をスタートさせました。このプランに沿って当局は様々な施策を展開し、「ひと・まち・きずなで安全安心都市こうべを築く」ために適切に対応してまいりたいと考えております。